



甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

Nos. 87, 88

December 1989

日本新記録のゲンゴロウ2種*

阿部 光典

筆者は1986年と1987年に琉球八重山群島の石垣、西表の両島を訪れ、ゲンゴロウ類の調査をおこなった。その際、日本未記録のゲンゴロウを2種発見したので報告する。

1. *Clypeodytes orissaensis* VAZIRANI

サビモンマルチビゲンゴロウ (和名新称)

Clypeodytes orissaensis VAZIRANI, 1968, Orient.

Ins., 2 (3-4): 328-329.

体長は1.8 mm~1.9 mm. 体幅は1.0 mm.

頭部は黄褐色。表面の網目状印刻は密で、その間にまばらな大小の微細点刻をもつ。頭盾は前方に向ってゆるやかに盛り上がり、突き出した唇状をなす。触角は先端部まで頭部と同色。頭頂部には左右の眼の後縁を結ぶ横刻線が認められる。横刻線より後方部分の点刻はほとんど認められない。

前胸背板の色彩は頭部と同じ。ただし後縁中央部は濃褐色。両側は細く縁どられており、その後半部はほぼ直線であるが前半部はかすかにふくらんでいる。表面の網目状印刻は不明瞭。点刻ははっきり認められるが不規則であり、後縁直前の中央部では、かなり合着している。前胸背板全面に細毛が生えている。後縁両側の縦溝は上翅基部両側の縦溝へと連続している。後縁左側の縦溝は平仮名の「く」の字の下

部1/4を切り取った形を呈し、さらに屈折点より前方は直線ではなくて、片仮名の「ノ」の字型に、かすかなカーブを示す。当然のことながら右側の溝はそれと相称である。

上翅は淡い黄褐色で柔毛が生えている。会合線上には大きな汚点状の紋が連なり、その周辺に鉄サビ色の、小さくて不規則な紋がいくつかあるが、輪郭がぼやけている。しかし、それらの紋は基部に近づくにつれて幾分はっきりしてくる。上翅基部両側にある縦溝は、かすかに内側にふくらむカーブを描く。前方では前胸背板の溝へとつながる。長さは前胸背板の溝と同じか、または、それより長い。

表面の点刻ははっきり認められ、点刻相互の間隔は点刻の直径と同じか、または、その1.5倍くらいである。点刻内部は濃褐色を帯びている。点刻は中央部ではかなり規則的に縦に並んでいる。

腹部は赤茶色で、前胸背板側片と脚は淡黄褐色。陰茎は太く、先端部はとがらない。陰茎側片は先端部が大きくて特徴的である。

既知産地：インド、スリランカ、タイ。

記録：25頭、沖縄県石垣市名蔵（石垣島）、20. xii. 1987. 筆者採集；3頭、沖縄県竹富町大富（西表島）、19. xii. 1987. 筆者採集。

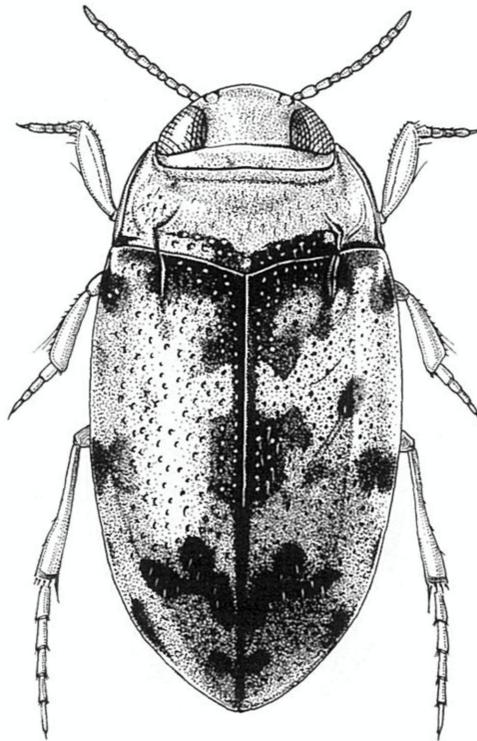


図1. *Clypeodytes orissaensis* VAZIRANI, 沖縄県石垣島産, 小堀文彦氏描画。

* ABE, Terutsune, Two Dytiscid-Beetles New to the Fauna of Japan

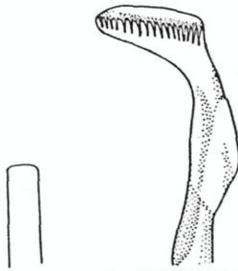


図 2. *C. orissaensis*; 左は陰茎先端背面, 右は側片 (VAZIRANI 1969, 原図).

なお, 松井英司氏が「北九州の昆虫」に *Clypeodytes* sp. として報告 (1988) したものを恵送して頂き, 検討したところ本種であることが判明したので, その記録を再録しておく。

10 頭, 鹿児島県奄美大島竜郷町, 25. iii. 1988; 5 頭, 同島・名瀬市小湊, 26. iii. 1988; 7 頭, 同島・住用村, 26. iii. 1988; 17 頭, 徳之島町大原, 18-19. viii. 1987; 3 頭, 沖之永良部島和泊町出花, 16. viii. 1987; 2 頭, 与論島曾本名の池, 14. viii. 1987. 以上採集者は松井英司氏。

また, 吉田篤人氏から頂いた標本の中にも本種を見出したので記録しておく。3 頭, 沖縄県与那国島宇良部岳, i. v. 1989, 吉田篤人採集。

注記: この種は 1968 年にインドのオリッサ州カタック (Cuttack, Orissa, India) を基産地として T. G. VAZIRANI によって記載されたものである。石垣, 西表の両島において筆者は休耕田ないしは湿地帯で本種を採集した。日本では同属のものとして *C. frontalis* (SHARP) マルチビゲンゴロウが知られている。さらに未記載種と思われるものが東京都と栃木県, 青森県で発見されている。

C. frontalis (F と略記) と *C. orissaensis* (O と略記) を比較してみる。

1) 体型; F は短い卵型で体幅が広く, 翅端部に近づくにつれてまろみなくなり, 翅端部がとがった感じになる。O は多少, 長卵型で体幅は, よりせまく翅端部でもま

るみをほとんど失わない。背面は O よりも F の方が隆まりが強い。

2) 色彩; 一見して F は茶褐色, O は黄褐色。特に前胸部と頭部でのちがいは明瞭。F は上翅点刻内部が暗色とならないが O のそれは暗色になる。F の触角先端部 6 節は暗色であるが, O の触角はすべての節が黄褐色。

3) 前胸背板の縦溝; F のそれは屈折の度合いが弱く, 強いカーブ状に曲がるが, O のそれは明らかに屈折点が認められ, 折れ曲がる。

2. *Guignotus inconstans* (RÉGIMBART)

チャマダラチビゲンゴロウ (和名新称)

Bidessus inconstans RÉGIMBART, 1892, Annl. Soc. ent. Belg., 36: 119-120; 1895, Annl. Soc. ent. Fr., 64: 344; FERNANDO, 1956, Ceylon. J. Sci. (Biol. Sci.), 2 (1): 1, 3; 1961, Ceylon J. Sci. (Biol. Sci.) 4 (1): 46, 53.

Bidessus intermixtus SHARP, 1882, Sci. Trans. R. Dublin Soc., 2: 358.

Bidessus (s. str.) *intermedius*, RÉGIMBART, 1889, Annl. Soc. ent. Fr., 68: 227-228.

Guignotus inconstans (RÉGIMBART); VAZIRANI, 1968, Orient. Ins., 2 (3-4): 322-323.

体長は 1.8 mm ~ 2.0 mm. 長楕円形。背面が少し隆っており, 頭部を除いて柔毛がまばらに生えている。

頭部は黄褐色。眼の周辺には濃褐色の紋があるが輪郭がぼやけている。点刻はまばらであり, 網目状印刻は不明瞭。

前胸背板は頭部と同色で, 左右の縦溝にはさまれた基部のみ濃褐色。前縁部では, やゝ大型の点刻が横に並んでいるが, その他の部分にある点刻は細かくて不規則である。網目状印刻は痕跡程度。両外縁はかすかにふくらんでいる。基部両側にある「ハ」の字型の縦溝は深く明瞭。これらの縦溝は前胸背板後縁近くで内側にカーブし, 上翅の縦溝へとつながる。長さは前胸背板の 1/2 弱。

上翅は個体により, 赤褐色から黄褐色まで変化が多い。左右の亜会合線にはさまれた部分および小盾板周辺は濃褐色であり, 他の部分は幾分淡色

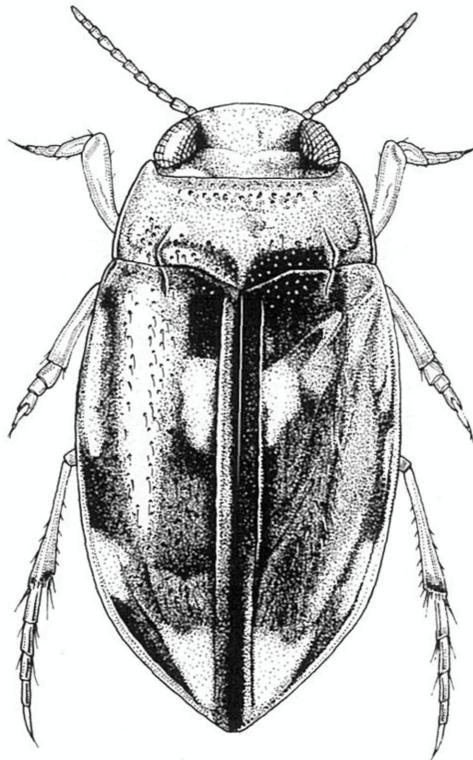


図 3. *Guignotus inconstans* (RÉGIMBART) 沖縄県西表島産, 小堀文彦氏描画。

である。亜会合線に沿って淡黄色の部分がある。ひとつは中央前部に、他のひとつは翅端部にあるが、いずれも輪郭が不明瞭。上翅外縁は淡褐色であり、縁どりが認められる。表面の点刻は強くなく、その間隔は直径の2倍。網目状点刻は痕跡的。基部両側の縦溝は個体によって長さが異なるが前胸背板の溝よりは短い。

腹部は黄褐色で、きわめてまばらに細かい柔毛が生えている。陰茎は細くて全体がなめらかに曲っており、先端はとがる。

既知産地：インド、スリランカ、ネパール。

記録：1頭、沖縄県石垣市宮良（石垣島）、20. xii. 1986, 筆者採集；2頭、沖縄県竹富町大富（西表島）、19. xii. 1987, 筆者採集。

被検標本：上記の標本の他に参考資料としてつぎの標本も検した。すべて杉山恵一氏の採集品であるが、黒佐和義博士のお取り計らいにより検することができた。



図4. *G. inconstans*; 左は陰茎先端側面, 右は側片 (VAZIRANI 1969, 原図)。

○式根島から新記録のハネカクシ

ハンミョウ類の調査のため式根島を訪れた榎戸良裕氏から、その折りに採集されたハネカクシをいただいた。それら5種はいずれも同島から未記録の種であったので、ここに報告する。

1. *Philonthus sericans* SHARP キヌコガシラハネカクシ 3 ♂♂, 2 ♀♀, 島南部, 13. ix. 1987.
2. *Cafius (Remus) algarum* SHARP ホソウミベハネカクシ
1 ♀, 釜の下, 24. ix. 1985, 3 ♀♀, 同上, 11—12. ix. 1987.
3. *Cafius (Remus) histrio*(SHARP) ホソアバタウミベハネカクシ
3 ♂♂, 2 ♀♀, 釜の下, 24. ix. 1985, 2 ♂♂, 12 ♀♀, 同上, 12. ix. 1987.
4. *Cafius (Remus) vestitus* (SHARP) アバタウミベハネカクシ
4 ♂♂, 10 ♀♀, 釜の下, 24. ix. 1985. 6 ♂♂, 5 ♀♀, 同上, 11—12. ix. 1987.
5. *Phucobius simulator* SHARP ウミベアカバハネカクシ
6 ♂♂, 2 ♀♀, 釜の下, 12. ix. 1987.

末筆ながら貴重な標本をご恵与下さった榎戸良裕氏に御礼申しあげる。(東京都町田市, 柴田泰利)

1頭, Galle, Sri Lanka, 25. iii. 1988; 3頭, Nayabjar, Kathmandu, Nepal, 24—25. iii. 1989; 3頭, Naubise, Kathmandu, Nepal, 26. iii. 1989; 3頭, Damauli, Kathmandu, Nepal, 26. iii. 1989; 多数, Pokhara, Kathmandu, Nepal, 27. iii. 1989.

注記：この種は RÉGIMBART (1892) によりセイロン島 (Ceylon—現 Sri Lanka) から記載されたもので、石垣、西表では湿地帯で発見された。日本には、この属のものとして、*G. japonicus* (SHARP) チビゲンゴロウと *G. kifunei* NAKANE キオビチビゲンゴロウの2種が知られている。

G. japonicus (Jと略記) と *G. inconstans* (Iと略記) を比べてみると、つぎのような差異が認められる。

- 1) 色彩；一見してJはIよりも強く濃褐色。触角先端部6節もJの方が暗色で、Iのそれはわずかに暗色となる個体が多い。Iの上翅点刻内部には暗色斑がみとめられる。
- 2) 前胸後角；Jの後角は鈍角であるが、Iのそれは、さらに広い鈍角。
- 3) 上翅の点刻；Jの点刻はIのそれよりも強く、荒い。

謝辞：この報文を執筆するにあたって、佐藤正孝教授から同定・文献に関するご援助を頂いた。また黒佐和義、杉山恵一、松井英司、吉田篤人の各氏のお陰で各地の標本を検することができた。さらに埼玉昆虫談話会の小堀文彦氏には標本の見事な絵を画いて頂いた。これらの方々には心から感謝の意を表したい。(東京都大田区)

○ミヤマツチハンミョウの白山からの記録

筆者らは1988年および1989年に岐阜県博物館の白山東斜面(岐阜県側)の動植物調査に参加し、その折りにミヤマツチハンミョウ *Meloe brevicollis* PANZER を次のように採集することができたので報告したい。

1♂, 18. vi. 1988, 長谷川道明採集。

1♀, 21. vii. 1988, 長谷川道明採集。

3♀♀, 14~17. vii. 1989, 中島恬・後藤常明採集
採集地はいずれも、白山登山道平瀬ルートの大倉山(2000 m)付近で、登山道を歩行中のものを採集した。

本種を同定していただいた黒沢良彦博士のご教示によると、確実な記録では、新潟・群馬県境の谷川岳が現在までの分布の南端にあたるものであった。今回の白山からの記録は国内での分布の西南端にあたるものと思われる。

末筆ながら、本種を同定してくださり、合わせて色々ご教示頂いたうえに発表を勧めてくださった黒沢良彦博士に厚くお礼申しあげる。

(岐阜県博物館, 長谷川道明・中島恬・後藤常明)

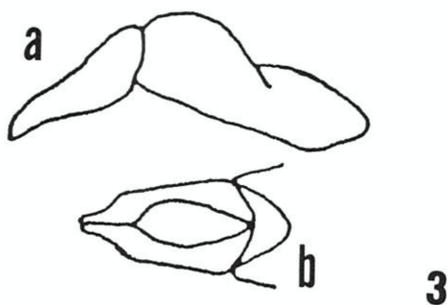
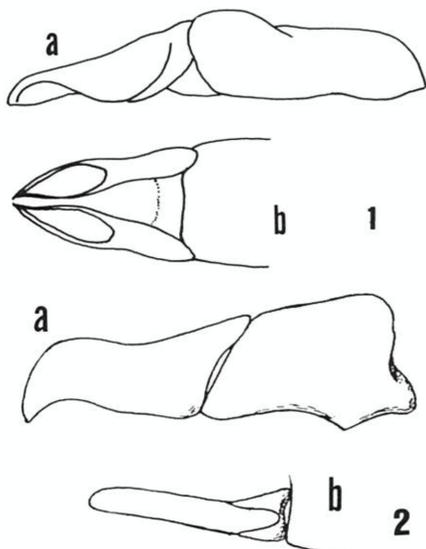
ヒメキイロマグソコガネの種名について

三宅 義一

ヒメキイロマグソコガネの種名は、日本では最近の図鑑類や目録などでも通常 *Aphodius* (亜属名は *Nialus* または *Liothorax*) *inouei* NOMURA が使われているが、海外では BALTHASAR (1964) のモノグラフをはじめ、この *inouei* はヨーロッパからシベリアにかけて広く分布する *A. sturmi* HAROLD の同物異名として取扱われている。私は最近、東京農工大学におられた田中均氏を通じて同定を依頼された中国遼寧省営口県大石橋附近で、営口県農業研究所の李景科氏によって採集されたコガネムシ類を調べたが、その中に 2♀ のヒメキイロマグソコガネの標本が含まれていて *sturmi* の記載とほぼ一致することから、一応 *Aphodius (Subrinus) sturmi* HAROLD と同定しておいた。しかし、この種名の決定には疑問がなかったわけではない。というのは、以前、白水先生を通じて同定を依頼された九州大学済州島学術調査団の採集品の中に、中国産と極めて類似した標本があって、手許にある♂交尾器の図の下書き(第 1 図)は PAULIAN (1941) の調べたヨーロッパ産の *sturmi* (第 2 図)とは異なり、側片の先端近くで外縁に大きなえぐれがあり、基片も基部近くで背方に強く隆起しないことなどから日本や済州島のものは *sturmi* とは別の種、すなわち *inouei* は独立種であると判断して、済州島のリストには、そのようなコメントを付記しておいた。特に *inouei* の holotype の産地は、やはり中国東北地方(旧満州)の Yenki (延吉)であり、同一地方にある大石橋の標

本を *sturmi* と同定するには多少の逡巡を感じていたのである。ところが、最近、農水省蚕糸・昆虫農業技術研究所の木内信氏におめにかゝった際、たまたまこの種が話題となり、同氏も同様の疑問を持っておられたらしく、PAULIAN の *sturmi* の♂交尾器の図は、以前の論文と最近のものとは異なっていて、1941 年の図は多分別種であろうという話をうかがった。早速調べてみると、なるほど PAULIAN と BARAUD 共著のフランス甲虫誌の挿図(第 3 図)の♂交尾器(説明の記号が i と j と異っているようである)は、手許に残っていた済州島産の交尾器の図の下書きと大体一致するようである。私はまだ沖縄などの標本は調べていないが、中国東北、済州島、日本などのヒメキイロマグソコガネは *Aphodius (Subrinus) sturmi* HAROLD と同定してよいと思われる。なお、亜属名は DELLACASA (1983) によった。前頭縫線の状態や単色であることなどの理由で *Nialus* や *Liothorax* と亜属を区別することができるかどうかは判断のむずかしいところであるが、同様の形質を持った種が他にもあるようなのでこの亜属を採用した。

研究の機会を与えてくださった白水隆博士、田中均氏、李景科氏とともに、交尾器の図などについて教えてくださった木内信博士、文献についてお世話になった藤岡昌介氏に心からお礼申し上げます。



参考文献

- BALTHASAR, V. 1964 Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palaarktischen und orientalischen Region. III, pp. 1~646 Prague.
 DELLACASA, M. 1983 Contribution to a world-wide Catalogue of Aegialiidae, Aphodiidae, Aulonocnemidae, Termitotrogidae, Mem. Soc. ent. Ital., pp. 1~455.
 NOMURA, S. 1942 Die coprophagen Scarabaeiden aus Nord-Korea, Mushi, Fukuoka 14 (2): 116~117.
 PAULIAN, R. and BARAUD, J. 1982, Faune des Coléoptères de France 2, Lucanoidea et Scarabaeoidea, pp. 1~477. Paris.

(多摩市)

図 1~3. ヒメキイロマグソコガネの♂交尾器。

a: 側面
 b: 側片腹面

日本産步行虫ノート VI: 本州で発見された日本新記録の
ホソアトモンアオゴミムシ (新称)*

笠原 須磨生・松本 俊信

1985年6月、静岡市の石川 均氏は、静岡県引佐郡引佐町の山間部にある水田の畦で、見馴れぬアオゴミムシ1♂を採集した。それはアトモンアオゴミムシ *Chlaenius bioculatus* CHAUDOIR に似ているが、体がより細く、前胸背板の形も異なり、くちひげの末端節が顕著に幅広く拡がっていて、明らかに日本では未記録の種と思われた。同所では再三にわたる探索にもかかわらず追加の個体を得ることはできなかったが、本年(1989)5月に、今度は岡山県英田郡大原町で発見された同じ種の1♂が東京の新里達也氏によってもたらされた。

これらの標本の同定を依頼された筆者らが調べたところ、1923年に ANDREWES が中国から記載し、1941年にジャワ産アオゴミムシ類の検索表にも加えている *C. junceus* の記載によく一致することがわかった。そして、今夏、欧米の博物館を歴訪された柴田泰利氏にお願いして、大英博物館(自然史)に保存されている *C. junceus* の基準標本と照合して頂いた結果、日本産のものが本種に違いないことも確認された。

アオゴミムシ属の未記録種が本州で発見されようとは意外なことであり、今後さらに本種の追加記録が期待されることでもあるので、ここに図示再記載して同好諸賢の注意を喚起する次第である。はじめ

に、貴重な標本の調査をゆだねられた石川 均、新里達也、西山 明、善場荘八の各氏、ならびに基準標本の調査、撮影の労を賜った柴田泰利氏に心から謝意を表したい。

Chlaenius junceus ANDREWES
ホソアトモンアオゴミムシ (新称)

ANDREWES, 1923, pp. 336-337 (China); 1930, pp. 95, 376; 1941, p. 307. CSIKI, 1931, p. 958.

記載 雄。体長 10.5~12.2 mm。体幅 3.8~4.0 mm。黒色。頭部は銅色で光沢が強い；前胸背板は黒色で弱い銅光沢があり、側縁部は青緑色で光沢が強い、ただし、岡山県産の個体はこの部分が黒色である；上翅は黒色で、翅端紋は汚黄色；大あご、上唇と口ひげは暗赤褐色；触角の柄節と第2節は赤褐色、第3節から先は暗褐色もしくは黒色；腿節は黄褐色で先端部は黒色；脛節と跗節は暗褐色か黒色で、脛節の先端部は常に黒色；体下面は光沢が強く、黒色。

頭部は比較的小さく、首もアトモンアオゴミムシより細い；複眼は大きく、半球状；こめかみは短かく、斜め；前頭溝は浅いが、長く、後方へ開き、複眼の中央付近に達し、点刻され、後部に縦しわがある；表面はやや滑沢で前頭部ではややまばらに、後頭部ではより密に点刻されるが、アトモンアオゴミムシ

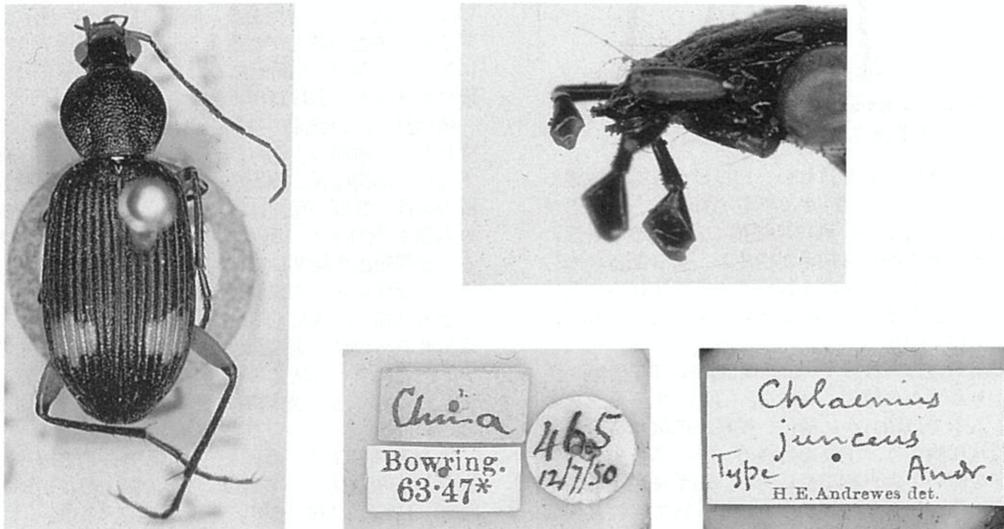


図1. *Chlaenius junceus* ANDREWES, 基準標本(♂): 全形、口ひげと添付ラベル。
大英博物館(自然史)蔵。柴田泰利氏撮影。

* KASAHARA, S., & T. MATSUMOTO, Notes on Japanese ground beetles, VI: Occurrence of *Chlaenius junceus* ANDREWES in Honshu, Japan.

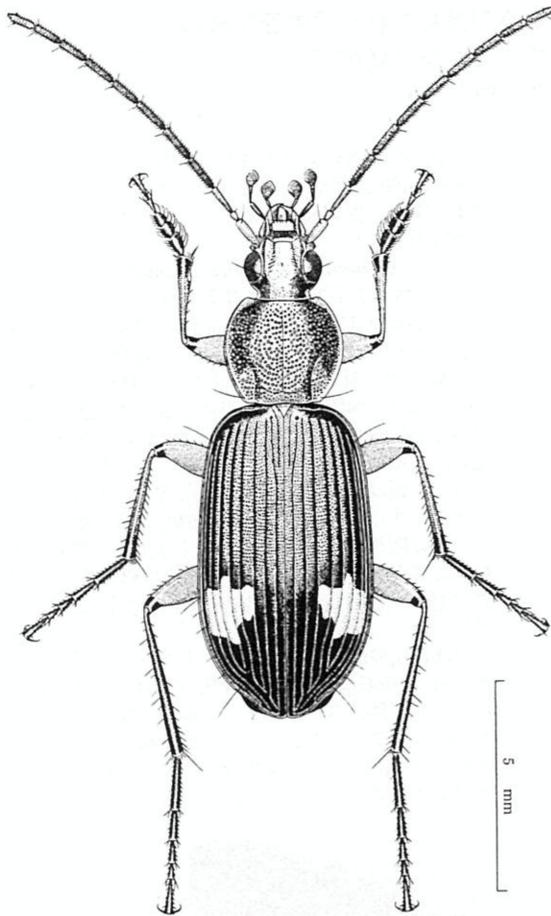


図 2. *Chlaenius junceus* ANDREWES, ♂, 静岡県引佐町四方浄産。

のように強い点刻ではない；口ひげの末端節は強く拡がり，小あごひげはダイヤ型（図 3, a），下あごひげは斧型（図 3, b）；触角は細長く，上翅の中央部に達する；第 4 節から細毛が密生し，第 3 節はなめらかで，アトモンアオゴミムシのようなまばらな毛はない；柄節と第 2～6 節の長さの略比は，1:0.4:1:1.1:1.15:1.15。

前胸背板は円板状で中高，頭部の約 1.5 倍幅，長さよりわずかに幅広く（幅/長 1.13），アトモンアオゴミムシでは明らかに横位；側縁は前後にほぼ等しく弧状に狭まり，上反部は後方へ拡がる；表面は側縁部を除いて大点刻が密にあり，細毛を生ずる；中央條は細い；基部凹陷は浅く，平行状で，強く点刻される；後角は鈍く，まるい。

上翅は細長く，中高，前胸の約 1.45 倍幅，約 3 倍長，長さは幅の 2 倍弱（長/幅約 1.88）；肩はアトモンアオゴミムシよりまるい；側縁は基半部でやや平行状，後方へゆるく拡がる；基部小條は長い；條溝

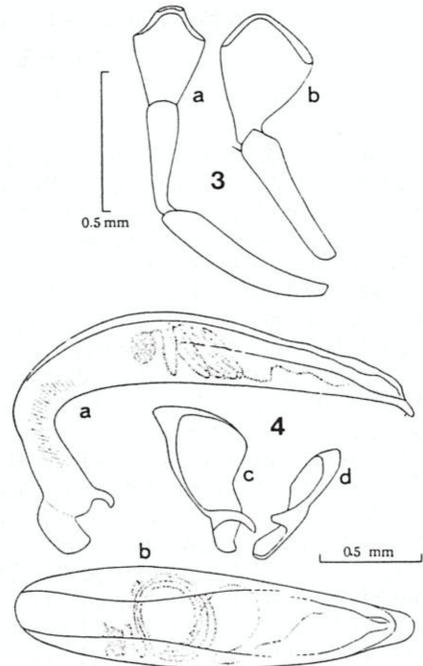


図 3-4. *Chlaenius junceus* ANDREWES, ♂, 静岡県引佐町四方浄産：口ひげと交尾器——3, 口ひげ；a, 小あごひげ；b, 下あごひげ；4, 交尾器；a, 陰茎左側面；b, 同背面；c, 左側片；d, 右側片。

は深く，底にきざみがある；間室は隆まり，密に点刻され，黄色の細毛が密生する；翅端紋は後方 1/3 にあって，第 4～8 間室にわたり，第 6 間室では前後に突き出る；側片は滑沢。

肢は長く，前腿節の基部内側に先のとがった小突隆がある；跗節の上面は，まばらに点刻される。体下面は，前胸腹板と側板の内側，中胸側板，後胸腹板の両側と側板が粗く，強く点刻される；腹部腹板の両側も点刻され，滑沢な中央部にも細点刻がある；腹部腹板末端部の後縁中央部は広く弧状にはり出し，後縁からやや離れて両側に各 1 刺毛がある。

陰茎は細く，基部 1/3 で強く弯曲し，ほぼまっすぐに前方へのび，先端部は下方へ反り，先端はまるい；内袋にコイル状にまかれた長い交尾片がある；左側片は幅広く，先端部はとがり気味に強く狭まる。

検視標本。1♂，静岡県引佐郡引佐町四方浄，10. vi. 1985，石川 均採集；1♂，岡山県英田郡大原町，12. v. 1989，西山 明，善場荘八採集。

分布。日本（本州），中国，ジャワ。

備考。日本産の 2 個体は，中国，ジャワ産（体長 10.5～11 mm）よりやや大きい。また，これらは新鮮な完全個体で，しかも内陸部で得られていることから，近時の移入や偶産とは考えられない。国外に

おける記録も少ないので、個体数が少なく、かつ他のアオゴミムシ類と生態的にも異なる点があって、これまで発見されなかったのかもしれない。

ANDREWES (1923, p. 337) は、本種の記載にもちいた大英博物館所蔵の4頭の雌雄のうち、3頭がBOWRING collectionによるもので、“China”のラベル(図1)を付されたものは香港産、ほかの1頭はFORTUNEの採集品で“N. China”のラベルから推察して上海産であろうと述べている。

なお、本種は雄の前腿節基部に小突隆のあることや、交尾器の形態からみて、アトモンアオゴミムシなどを含む *bimaculatus*-group (HABU, 1987, pp. 13-16)、すなわち *Ilaenchus* 亜属に属するものと考えられるが、雌の交尾器を調べることにより、所属がさらに明らかになるだろう。

○ダルマチビホソカタムシを東京都で採集

ホソカタムシ科の甲虫はツヤナガヒラタホソカタムシやホソマダラホソカタムシなどの一部の種を除き採集しにくい種類が多いようである。

筆者は採集例の少ないダルマチビホソカタムシ *Pseudotarphius lewisii* WOLLASTON を東京都八王子市で多数採集したので報告する。

25頭、東京都八王子市初沢町, 6. vii. 1989

採集場所はクリ林の中で、菌類が生じているクリの枯枝を叩いて採集した。

菌類に関しては筆者は全くの素人で正確なことは言えないが、図鑑類で調べた限りでは広葉樹の枯枝に見られるウスベニウロコタケ *Stereum roseum* YASUDA と思われる。

採集地のクリ林では他にも多くの枯枝が見られたが、本種はウスベニウロコタケの発生している枯枝からのみ採集され、何らかの関係があるのではないかと思われる。

すでに述べたように本種は採集例の少ないホソカタムシで本州、九州、屋久島、奄美大島から分布が報告されているが、筆者の不勉強のためか本州では広島県と山口県の記録しか知らない。

しかし、今回の採集経験から推測すると、クリの枯枝などはどこにでも見られるものであり、ウスベニウロコタケもクリに限らず、サクラやシイなど広葉樹の枯枝に普通に見られる菌類のようであり、各地で本種が採集される可能性は高いと思う。

(東京都世田谷区, 沢田和宏)

○エグリゴミムシの東京都内の記録

エグリゴミムシ *Eustra japonica* BATES は落ち葉や朽ち木中から採集され、本州(北東部をのぞく)、四国、九州に分布し、西日本では採集例が多いと聞いている。また採集されるときは多くの個体を採集できるという。

東京都内での採集例は少ないと思われるので、採集時の状況とともに、ここに報告しておく。

参考文献

- ANDREWES, H. E., 1923. Papers on Oriental Carabidae.—IX. *Annl. Mag. nat. Hist.*, (9) 11: 335~344.
 ———— 1930. Catalogue of Indian Insects, part 18—Carabidae. i+xxii+389 pp. Government of India, Calcutta.
 ———— 1941. Papers on Oriental Carabidae.—xxxvii. *Annl. Mag. nat. Hist.*, (11) 7: 307~317.
 CSIKI, E., 1931. Carabidae: Harpalinae V. In JUNK, W., & S. SCHENKLING (eds.). *Coleopterorum Catalogus*, pars 115. (739~1022 pp.) W. Junk, Berlin.
 HABU, A., 1987. Classification of the Callistini of Japan (Coleoptera, Carabidae). *Ent. Rev. Japan*, 42: 1~36.
 (笠原, 千葉県船橋市; 松本, 東京都目黒区)

20頭, 12. ix. 1989; 5頭, 16. x. 1989, 東京都文京区大塚公園, 筆者採集, イチョウの切株の洞のサルノコシカケの隙間から間断なく姿を見せては、また隙間に入って行く。洞の中が暗いので昼間もちょこちょこ歩いているが、夜間の方が個体数は多いようで、洞の外にも姿を見せている。筆者の観察中は交尾行動は見られなかった。

参考文献: 原色日本甲虫図鑑Ⅱ。(1985) 保育社
 (東京都中央区, 中村俊彦)

○岐阜県内におけるカノシマチビゲンゴロウの記録
 カノシマチビゲンゴロウ *Oreodytes kanoi* (KAMIYA) は長野県上高地産の標本に基づいて記載された種で、記載以降長年にわたって基準産地以外での記録がなかったが、最近、高桑^{1),2)}、松本³⁾、および阿部⁴⁾などによって北海道、福島県、新潟県、山梨県などでも記録された。

筆者は現在まで記録のなかった岐阜県内において次の二か所で本種を採集することができたので報告する。

1. 吉城郡上宝村平湯(高原川, 標高1200m)
20頭, 17. viii. 1989.
2. 大野郡白川村平瀬(大白川, 標高600m)
54頭, 26. v. 1989.

白山山系からはすでに高羽・松枝⁵⁾による石川県側の報告があるが、岐阜県側からは発見されていなかった。この記録は本種の採集地点としてはかなり低標高のものではないだろうか。

参考文献

- 1) 高桑正敏(1986)月刊むし, (190): 25.
- 2) 高桑正敏(1987)甲虫ニュース, (79/80): 9.
- 3) 松本英明(1987)月刊むし, (196): 37.
- 4) 阿部光典(1988)甲虫ニュース, (83/84): 5-6.
- 5) 高羽正治・松枝章(1978)「石川県の自然環境・第4分冊・昆虫、クモ、両生、爬虫類」: 73, 石川県。
 (岐阜県博物館, 長谷川道明)

ネクイハムシ再検討のための一資料

高橋 和宏

過日、筆者は阿部光典氏が採集された多数のネクイハムシ類の標本を頂いたが、いずれも従来記録のなかった産地と思われるので報告する。なお、記録の発表を許された阿部光典氏に深謝する。

1. オオネクイハムシ *Plateumaris (Plateumaris) constricticollis babai* (JACOBY)

群馬県武尊山玉原湿原: 27♂♂25♀♀, 27. vi. 1987.

本種には4亜種が知られているが、外部形態および雌の腹部第8節背板の形状等から、一応 *babai* と同定した。しかし、雄の生殖器(背片)については基準産地のものと比較して顕著な相違が認められ(図1, 2)、側部中央の張り出しが弱く、全体にスマートであり、形状的にはむしろ *toyamensis* に類似している。また、先端部中央背面には浅い縦溝が認められる点が特異である。本種の地理的変異については、阿武隈産の個体が従来での検索では既知のどの亜種にも含まれないことが既に報告されている(成田, 1987)が、各地の個体群について、亜種の位

置付けを含めた再検討を行う必要があるものと思われる。

2. スゲハムシ *Plateumaris (Euplateumaris) sericea* (LINNÉ)

岐阜県吉城郡安房平湿原: 金銅色型 69♂♂33♀♀, 22. vi. 1986; 群馬県武尊山玉原湿原: 青色型 9♂♂, 赤色型 2♂♂8♀♀, 金銅色型 27♂♂42♀♀, 27. vi. 1987; 新潟県佐渡島相川町大浦: 青色型 2♂♂, 金銅色型 1♂1♀♀, 27-30. v. 1989.

本種は各地に普通に産するが、佐渡島の記録は現在までのところ小倉峠の1例のみ(大野, 1968)と思われ貴重な記録である。

参考文献

- 成田行弘, 1987, 阿武隈山地南部におけるネクイハムシ6種成虫の季節的発生消長. *Donacisist*, (1): 11-16.
大野正男, 1968, 佐渡のハムシ相. 長岡市立科学博物館研究報告, 5: 21-38.

(神奈川県平塚市)

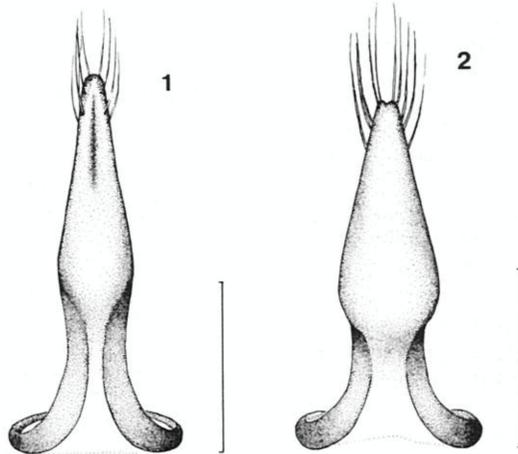


図1, 2. オオネクイハムシの雄生殖器背片(背面), 1: 群馬県武尊山玉原湿原産, 2: 新潟県南蒲原郡下田村吉ヶ平産(基準産地)。(スケール: 0.5 mm)

◇ 報 告 ◇

さる10月8日~10日、大阪府立大学にて開催された日本昆虫学会第49回大会において日本鞘翅学会小集会被開かれました。9日午前9:00より開始予定でしたが、前夜は懇親会であったため、予想通り出足はにぶく、30分程遅れて始まりました。講演は次の2題。佐々治寛之氏による日本産チビキカワムシ科の分類現況について、次に上野俊一氏が、8月~9月の約一ヶ月間にわたり、中国天目山特別保護区土壌動物調査に参加された折りのさまざまな事柄を多数のスライドを混じえながらお話いただき

した。東京で行なわれる大会とは違い、少数ながら全国からの会員が集まれる場となりました。今後も毎年、昆虫学会大会で場所をお借りして小集会被持ちたいと考えています。なお参加者は次の通り。上野俊一、佐藤正孝、酒井雅博、大林延夫、久松定成、野村周平、大原昌宏、森本 桂、佐々治寛之、直海俊一郎、山上 明、八尋克郎、川那部真、常喜 豊、岩田隆太郎、大倉正文、楠井善久、中條道崇、渡辺泰明、齊藤明子、菊池孝彦、多比良嘉晃、八田耕吉、山本雅則、近 博夫(順不同)。

(齊藤明子記)

沖縄県産 Hydradephaga の記録

阿部 光典

沖縄県産の食肉性水生甲虫については、ライト・トラップなどによって、一部には、かなりの研究材料が集められているようであるが、分布資料として、まとまった報告は少ない。

筆者は1986年に石垣島、1987年に石垣島と西表島、1988年に沖縄本島と、計3回沖縄県を調査したので、その結果を記録しておきたい。なお高橋隆信氏が石垣島で採集した標本を、黒佐和義博士のご好意で検することができたので、その結果も付け加えておく。また、吉田篤人氏が与那国島でゾウムシ採集のかたわら水生甲虫類も採ってきてくださったので、それらも使わせていただいた。上記の諸氏に心から謝意を表したい。

報文としては変則的であるが採集地別に種名を列挙し、そのあとで分布表を示した。

I) 石垣市宮良および川原付近

20~22. xii. 1986, 筆者採集

1. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 23 頭.
2. タイワンケシゲンゴロウ *Hyph. lyratus* SWARTZ, 多数.
3. オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* SHARP, 3 頭.
4. マルケシゲンゴロウ *Hydro. subtilis* SHARP, 4 頭.
5. チャイロチビゲンゴロウ *Liodessus megacephalus* (GSCHWENDTNER), 5 頭.
6. チャマダラチビゲンゴロウ (新称) *Guignotus inconstans* (RÉGIMBART), 1 頭.
7. タマケシゲンゴロウ *Herophydrus rufus* (CLARK), 多数.
8. ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis* SHARP, 1 頭.
9. コウベツブゲンゴロウ *Lacc. kobensis* SHARP, 1 頭.
10. シャープツブゲンゴロウ *Lacc. sharpi* RÉGIMBART, 24 頭.
11. ウスチャツブゲンゴロウ *Lacc. chinensis* BOHEMAN, 2 頭.
12. ミナミツブゲンゴロウ *Lacc. pulicarius* SHARP, 2 頭.
13. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (STEPHENS), 44 頭.
14. オキナワスジゲンゴロウ *Hydaticus vittatus* (FABRICIUS), 17 頭.
15. ウスイロシマゲンゴロウ *Hyd. rhantoides* SHARP, 多数.
16. トビイロゲンゴロウ *Cybister sugillatus* ERICHSON, 多数.
17. コガタノゲンゴロウ *Cyb. tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER, 13 頭.

18. フチトリゲンゴロウ *Cyb. limbatus* (FABRICIUS), 2 頭.19. ヒメフチトリゲンゴロウ *Cyb. ventralis* SHARP, 8 頭.20. オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (MODEER), 34 頭.21. ツマキレオオミズスマシ *Din. australis* (FABRICIUS), 1 頭.

[注記] 石垣空港の東北の方角に宮良川が流れている。その河口近くに大きな草原があり、ところどころに沼や湿地がある。ここにはタイワンケシやタマケシを始め、多くの小型種がいた。ところが1987年、石垣空港に着陸する直前に、窓から宮良川河口を見たら、前年に行った草原が見当たらない。着陸後、行ってみたら、すべて造成が終って草も木も沼もない広場になっていた。三和集落周辺の溜池は岸がほとんどスリ鉢状で採集しにくい。水草の多い所でフチトリ、ヒメフチトリを採集。ウスイロシマとトビイロは多い。とりわけチャマダラチビ(日本新記録)とコウベツブ(石垣新記録)を発見できたことは特記すべきであろう。

II) 石垣市名蔵付近

15~16, 20. xii. 1987, 筆者採集.

1. シナコガシラミズムシ *Pelodytes sinensis* (HOPE), 11 頭
2. コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* SHARP, 多数.
3. チビコツブゲンゴロウ *Hydrocoptus subvittulus* MOTSCHULSKY, 14 頭.
4. ツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* SHARP, 23 頭.
5. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 5 頭.
6. オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* SHARP, 26 頭.
7. マルケシゲンゴロウ *Hydrov. subtilis* SHARP, 多数.
8. チビマルケシゲンゴロウ *Hydrov. pumilus* SHARP, 5 頭.
9. ナガチビゲンゴロウ *Uvarus tokarensis* M. SATÔ, 2 頭.
10. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (SHARP), 12 頭.
11. サビモンマルチビゲンゴロウ *Clypeodytes orissaensis* VAZIRANI, 25 頭.
12. コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* SHARP, 5 頭.
13. シャープツブゲンゴロウ *Lacc. sharpi* RÉGIMBART, 多数.
14. ウスチャツブゲンゴロウ *Lacc. chinensis* BOHEMAN, 4 頭.

15. ミナミツブゲンゴロウ *Lacc. pulicarius* SHARP, 2頭.
16. リュウキュウセスジゲンゴロウ *Copelatus andamanicus* RÉGIMBART, 2頭.
17. タイワンセスジゲンゴロウ *Cop. tenebrosus* RÉGIMBART, 32頭.
18. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (STEPHENS), 1頭.
19. オキナワスジゲンゴロウ *Hydaticus vittatus* (FABRICIUS), 多数.
20. ウスイロシマゲンゴロウ *Hyd. rhantoides* SHARP, 多数.
21. トビイロゲンゴロウ *Cybister sugillatus* ERICHSON, 多数.
22. コガタノゲンゴロウ *Cyb. tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER, 35頭.
23. フチトリゲンゴロウ *Cyb. limbatus* (FABRICIUS), 1頭.

[注記] 名蔵の集落から海に向かって水田や湿地が広がっている。このあたりは休耕田も多く、たくさんの種類を確認できた。特記すべきものとしてはサビモンマルチビ(日本新記録), コウベツブ(石垣新記録), ナガチビ(石垣新記録)が挙げられる。また, チャイロチビが海から500mほどはなれた湿地で採れたことは意外であった。松井(1987)も同様の知見を報告している。

Ⅲ) 石垣市真栄里(まえさと)付近

19. viii. 1975, 高橋隆信採集.
1. チビコツブゲンゴロウ *Hydrocoptus subvittulus* MOTSCHULSKY, 多数.
2. ツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* SHARP, 4頭.
3. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 多数.
4. タイワンケシゲンゴロウ *Hyph. lyratus* SWARTZ, 9頭.
5. オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* SHARP, 4頭.
6. マルケシゲンゴロウ *Hydrov. subtilis* SHARP, 11頭.
7. チビマルケシゲンゴロウ *Hydrov. pumilus* SHARP, 1頭.
8. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (SHARP), 9頭.
9. タマケシゲンゴロウ *Herophydrus rufus* (CLARK), 12頭.
10. ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis* SHARP, 2頭.
11. シャープツブゲンゴロウ *Lacc. sharpi* RÉGIMBART, 58頭.
12. ウスチャツブゲンゴロウ *Lacc. chinensis* BOHEMAN, 3頭.
13. タイワンセスジゲンゴロウ *Copelatus tenebrosus* RÉGIMBART, 6頭.

[注記] 採集地点は石垣市街の東はずれ。すべてライト・トラップで採集したものである。

Ⅳ) 竹富町大富付近(西表島)

- 17~19. xii. 1987, 筆者採集.
1. コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* SHARP, 8頭.
2. チビコツブゲンゴロウ *Hydrocoptus subvittulus* MOTSCHULSKY, 1頭.
3. ツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* SHARP, 22頭.
4. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 14頭.
5. オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* SHARP, 7頭.
6. マルケシゲンゴロウ *Hydrov. subtilis* SHARP, 7頭.
7. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (SHARP), 3頭.
8. チャマダラチビゲンゴロウ(新称) *Guignotus inconstans* (RÉGIMBART), 2頭.
9. サビモンマルチビゲンゴロウ(新称) *Clypeodytes orissaensis* VAZIRANI, 3頭.
10. コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* SHARP, 2頭.
11. シャープツブゲンゴロウ *Lacc. sharpi* RÉGIMBART, 多数.
12. ウスチャツブゲンゴロウ *Lacc. chinensis* BOHEMAN, 17頭.
13. ミナミツブゲンゴロウ *Lacc. pulicarius* SHARP, 2頭.
14. リュウキュウセスジゲンゴロウ *Copelatus andamanicus* RÉGIMBART, 1頭.
15. タイワンセスジゲンゴロウ *Cop. tenebrosus* RÉGIMBART, 多数.
16. オキナワスジゲンゴロウ *Hydaticus vittatus* (FABRICIUS), 多数.
17. ウスイロシマゲンゴロウ *Hyd. rhantoides* SHARP, 多数.
18. トビイロゲンゴロウ *Cybister sugillatus* ERICHSON, 多数.
19. コガタノゲンゴロウ *Cyb. tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER, 多数.

[注記] 大原の街を南下し, 橋を渡った所で左折すると水田や湿地がある。1987年現在, 大規模な造成工事がおこなわれており, 採集しにくい。大原から北上し, 大富に入ったあたりに水田が少しある。一枚の休耕田で多数のオキナワスジ, コガタノ, トビイロなどが採れた。西表島には水田が少ないが, 船浦方面へ通じる道路脇には所々に水溜りがある。しかし水牛のいることが多いので要注意。特記すべき種はチャマダラチビ(日本新記録), サビモンマルチビ(日本新記録), そしてコウベツブ(西表新記録)である。

V) 竹富町浦内 (西表島浦内川)

18. xii. 1987, 筆者採集.

1. アトホシヒラタマメゲンゴロウ *Platynectes chujoi* M. SATÔ, 25 頭.

[注記] アトホシヒラタマメを採る目的で、浦内橋から遊覧船でカンピラ滝まで行ってみた。滝周辺では川岸の水溜りで発見できた。しかし滝まで行かなくても、船着場近くの水たまりでも泳いでいた。白浜あたりでも採れているようである。

VI) 名護市許田 (きよだ)

7. i. 1989, 筆者採集.

1. オキナワオオミズスマシ *Dineutus mellyi insularis* RÉGIMBART, 多数.
2. オオミズスマシ *Din. orientalis* (MODEER), 1 頭.
3. リュウキュウヒメミズスマシ *Gyrinus ryukyensis* M. SATÔ, 1 頭.

[注記] 幅 2 m ほどの溪流に造られた砂防堤の上部にできた淀みで多数のオキナワオオミズスマシがみられた。川岸に立つと対岸の方へ逃げてゆき、水に網を入れるとすべてが水にもぐり、なかなか浮き上ってこないで採集しにくい。溪流性のゲンゴロウをさがしたが発見できなかった。

VII) 各護市汀間 (てま)

7. i. 1989, 筆者採集.

1. シナコガシラミズムシ *Peltodytes sinensis* (HOPE), 1 頭.
2. ツヤコップゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* SHARP, 多数.
3. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 1 頭.
4. シャーブツゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* RÉGIMBART, 多数.
5. ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhan-toides* SHARP, 6 頭.
6. トビイロゲンゴロウ *Cybister sugillatus* ERICHSON, 1 頭.
7. コガタノゲンゴロウ *Cyb. tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER, 1 頭.

[注記] 大浦湾を囲む地域で池を調べたが、その半数近くが水を落してあり、残りはスリ鉢状の池で、良い環境のところはない。辺野古川流域の湿地は埋め立て工事中であった。

VIII) 大宜味村饒波 (ぬうは)

8. i. 1989, 筆者採集.

1. シナコガシラミズムシ *Peltodytes sinensis* (HOPE), 29 頭.
2. コウトウコガシラミズムシ *Haliplus koto-shonis* KANO et KAMIYA, 6 頭.
3. コツゲンゴロウ *Noterus japonicus* SHARP, 2 頭.
4. ツヤコップゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* SHARP, 23 頭.
5. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 2 頭.
6. オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bon-*

vouloiri SHARP, 1 頭.

7. マルケシゲンゴロウ *Hydrov. subtilis* SHARP, 2 頭.
8. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus amamiensis* M. SATÔ, 3 頭.
9. シャーブツゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* RÉGIMBART, 17 頭.
10. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (STEPHENS), 1 頭.
11. ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhan-toides* SHARP, 3 頭.
12. トビイロゲンゴロウ *Cybister sugillatus* ERICHSON, 4 頭.
13. コガタノゲンゴロウ *Cyb. tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER, 1 頭.
14. リュウキュウヒメミズスマシ *Gyrinus ryukyensis* M. SATÔ, 1 頭.

[注記] 饒波川上流にある池で採集。かなり良い環境であるが、人工池であり、岸はスリ鉢状。それに続く湿原でも個体数は少ない。なお、辺土名周辺の池もみたが、生息環境としては良いものがなかった。

IX) 東村有銘 (あるめ)

9. i. 1989, 筆者採集.

1. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus amamiensis* M. SATÔ, 2 頭.
2. タイワンセスジゲンゴロウ *Copelatus tenebrosus* RÉGIMBART, 1 頭.
3. ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhan-toides* SHARP, 1 頭.
4. オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (MODEER), 1 頭.
5. オキナワオオミズスマシ *Din. mellyi insularis* RÉGIMBART, 2 頭.
6. リュウキュウヒメミズスマシ *Gyrinus ryukyensis* M. SATÔ, 10 頭.

[注記] 有銘北部にある津波山周辺を調べたがいずれも人工池で岸がスリ鉢状。水際に近づくのに苦労した。慶佐次川も護岸されており環境が悪く、個体数も少ない。

X) 与那国町宇良部岳 (与那国島)

1. v. 1989, 吉田篤人採集.

1. コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* CLARK, 3 頭.
2. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (SHARP), 11 頭.
3. サビモンマルチビゲンゴロウ *Clypeodytes orissaensis* VAZIRANI, 3 頭.
4. ウスチャップゲンゴロウ *Laccophilus chinensis* BOHEMAN, 10 頭.
5. オキナワオオミズスマシ *Dineutus mellyi insularis* RÉGIMBART, 3 頭.
6. オオミズスマシ *Din. orientalis* (MODEER), 1 頭.
7. ツマキレオオミズスマシ *Din. australis* (FABRICIUS), 12 頭.

後記：沖縄県の記録はあるが、上記の調査で発見できなかったものは、つぎの 6 種である。

1. ウエノチビケンゲンゴロウ *Microdytes uenoi* M. SATO

佐藤正孝氏は 1989 年に西表島白浜周辺で多数採集している。

2. フタキボシケンゲンゴロウ *Nipponhydrus bimaculatus* (M. SATO)

仲間川上流をさがせば見つかると思う。

3. コマルケシケンゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* MOTSCHULSKY

4. ハイイロケンゲンゴロウ *Eretis sticticus* (LINNÉ)
この 2 種が採れなかったのは意外であった。

5. オオイチモンジマケンゲンゴロウ *Hydaticus pacificus* AUBÉ

1977 年に西表島の大原で 30 頭ほど採れ、その後記録がなかったが、最近再び採れたという情報がある。

6. ヤエヤマコオナガミズスマシ *Orectochilus yayeyamensis* M. SATO

浦内川または仲間川の上流でゴミをすくうか、石を起せば採れると思うが筆者はそれを忘れていた。なお、松井英司氏が西表島カンピラの滝で 1989 年に採集した標本を筆者は所有している。

沖縄県産 Hydradephaga 調査結果一覧

科名・種名	地域	備考
	沖石西与	
コガシラミズムシ科		
1. シナコガシラ	○ ○	
2. コウトウコガシラ	○	
コップケンゲンゴロウ科		
1. コ ツ ブ	○ ○ ○	石垣初記録
2. チビコップ	○ ○	
3. ツヤコップ	○ ○ ○	

科名・種名	地域	備考
	沖石西与	
ゲンゴロウ科		
1. コケシ	○ ○ ○ ○	
2. タイワンケシ	○	
3. オオマルケシ	○ ○ ○	石垣初記録 石垣初記録
4. マルケシ	○ ○ ○	
5. チビマルケシ	○	
6. ナガチビ	○	
7. チャイロチビ	○	日本初記録
8. チャマダラチビ	○ ○ ○	
9. チビ	○ ○ ○ ○	
10. サビモンマルチビ	○ ○ ○ ○	日本初記録
11. タマケシ	○	
12. ツブ	○	石、西初記録
13. コウベツブ	○ ○	
14. シャーブツブ	○ ○ ○	
15. ウスチャツブ	○ ○ ○ ○	
16. ミナミツブ	○ ○ ○	
17. リュウキュウセスジ	○ ○ ○	
18. タイワンセスジ	○ ○ ○	
19. アトホシヒラタマメ	○ ○ ○	
20. ヒメ	○ ○	
21. オキナワセスジ	○ ○ ○	
22. ウスイロシマ	○ ○ ○ ○	
23. トビイロ	○ ○ ○ ○	
24. コガタノ	○ ○ ○ ○	
25. フチトリ	○	
26. ヒメフチトリ	○	
ミズスマシ科		
1. オオ	○ ○ ○ ○	
2. ツマキレオオ	○ ○ ○ ○	
3. オキナワオオ	○ ○ ○ ○	
4. リュウキュウヒメ	○ ○ ○ ○	

[注] ①種名の語尾“ミズムシ”, “ゲンゴロウ”, “ミズスマシ”は省略した。②地域名は次のように略記した。沖縄本島一沖, 石垣島一石, 西表島一西, 与那国島一与。③マル印は分布確認を示す。

(東京都大田区)

◇ 新刊紹介: 「旧徳山村地域動植物調査報告書」

岐阜県博物館発行 (1989 年 3 月), ペーパー・バック, 117 頁, 価格 1000 円, 送料 260 円。

旧徳山村は岐阜県の西北端、揖斐川の最上流部に位置し、北～西は県境を介して福井県大野市・池田町・今庄町に接している。村の 99% が山林で、四方は標高 1000m を越す山々によって囲まれている。植生はブナが主要部分を占める。この村はダム建設によって数年後には水没する予定。

この報告書は県博物館の学芸員が中心となって 1986 年より 3 年計画で調査した結果であり、植物、小型哺乳類・甲虫類が調査の対象となっている。甲虫類については長谷川道明氏を中心に野平、金林、青木、高井の諸氏が調査にあたり、文献記録を含めて、69 科 587 種を記録している。注目すべき種と

しては、ヒメヌレチゴミムシの一種、サイトウナガゴミムシ、ウエノオオナガゴミムシ (移行型)、ツヤチャイロコガネ、ルイスチャイロコガネ、オオメツツシンクイ、アオグロアカハネムシ、ニセチビヒョウタンゾウムシなどが挙げられる。この地域には南方系と北方系の種が混棲しており、その意味からもこの報告書は見逃さない文献である。申し込みは岐阜県博物館友会の会 (〒501-32, 関市小屋名, Tel. 0575-28-3111) へ。なお TTS 昆虫図書でも扱っている。(編集子)

◇ 「ニュース」の原稿送付先 ◇

143 東京都大田区南馬込 1-38-6, 阿部光典
Tel.03-771-1065

○オオクシヒゲコメツキの幼虫

オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* CANDEZE, 1873 は暖地系の種で、本州から台湾に至る各地とその周辺地域に広く分布が知られている。成虫は樹液に集まる性質があるが、燈火にもよく飛来する。

本種の幼虫はすでに大平 (1962) が岡山県で桜の朽木中から得られた個体を記録している。この幼虫は体長 30mm ほどの中齢と思われる古い標本のため、生時の体色などについてはよく判明していなかった。

筆者は 1989 年 8 月に、愛知県三河湾の島で、朽木中より老熟幼虫 (写真) を見出すことができた。



充分伸長した長さは 50 mm ほどでやや扁平状である。頭部、前胸背板、中胸背板の大部分と後胸背板の一部は黒褐色、他は淡黄色で、胸部の背板はやや濃色。第 9 腹節は円錐形状に近く、背面には小隆物を分布し、各節の背板上には短毛を散布する。また、第 10 腹節の側部には尾突起 (anal armature) を欠く。幼虫は朽木の内方部に生息し、カミキリムシなどの幼虫を捕食しているものと思われる。

本属は、最近の分類ではクシヒゲコメツキ族 (Hemirhipini) に所属され、ウバタマコメツキ族 (Chalcolepidiini) に近い位置におかれているが、幼虫の研究に関する限りでは、この考えは再検討が必要と思われる。本種の所属する系統上の位置と老熟幼虫の形態などについては、別に報告の予定である。

引用文献

大平仁夫 (1962) 日本産コメツキムシ科の幼虫の形態学的ならびに分類学的研究 (自刊)。

(岡崎国立共同研究機構, 大平仁夫)

◇ 会務報告 ◇

さる 3 月 26 日に港区虎ノ門の教育会館で開催された、日本鞘翅学会設立大会の総会において、以下の通り、役員が承認されました。

会長——上野俊一; 副会長——衣笠恵士
 常任幹事 (8 名)——齊藤秀生 (庶務), 齊藤明子 (会計), 渡辺泰明・齊藤明子 (ELYTRA 編集), 阿部光典 (甲虫ニュース編集), 佐藤正孝 (渉外), 大木裕 (大会), 笠原須磨生 (例会), 露木繁雄 (木曜サロン)

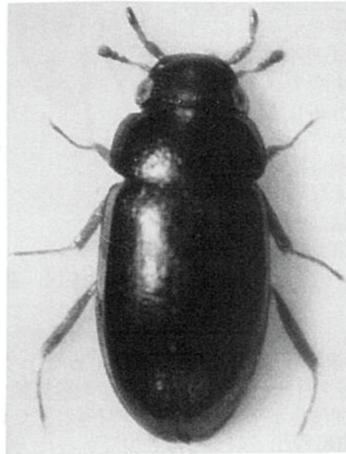
○ケシヒラタガムシ 甌島列島に産する

本種は、基亜種が本州から、吐噶喇列島亜種が吐噶喇列島中之島から記載されたものである (NAKANE, 1965~1966)。基亜種は、本州に分布するが報告は少ない。吐噶喇列島亜種は、中之島・宝島から報告がある。著者は、甌島列島の下甌島のアオミドロの多い小川より吐噶喇列島亜種を多数採集しているため、新産地として報告しておきたい。

Crenitis osawai tokaranus NAKANE, 1966

ケシヒラタガムシ (吐噶喇列島亜種)

40 頭, 鹿児島県甌島列島下甌島, 鹿島村中山, 4. vii. 1988, 著者採集



末筆ながら、同定を引き受けてくださった中根猛彦博士に感謝の意を表する。

引用文献

NAKANE, T. (1965~1966) New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. xxiii. *Fragm. Coleopt.* (13)~(15): 51~59.

(熊本県本渡市, 松井英司)

幹事 (17 名)——藤田 宏, 福田惣一, 平山洋人, 穂積俊文, 井野川重則, 石川良輔, 小宮義璋, 黒沢良彦, 森本 桂, 中村俊彦, 新里達也, 岡島秀治, 大林延夫, 須賀邦輝, 高桑正敏, 遠山雅夫, 山上 明, 会計監査 (2 名)——木村欣二, 小宮次郎。

上記の他, 編集委員は次の通りです。

ELYTRA——森本 桂, 新里達也, 佐藤正孝, 高桑正敏。

甲虫ニュース——岡島秀治

以上の役員の任期は 2 年です。 (庶務)

○大隅半島甫与志岳でムモンオオハナノミを採集
 ムモンオオハナノミ *Macrosiagon nasutum*
 (THUNBERG) は、原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ) (1985) によると、本邦では本州・四国と石垣島に分布するとされている。

筆者は本種を九州の大隅半島甫与志岳において採集したので、九州からの初めての報告として記録しておく。

1 頭、鹿児島県肝属郡甫与志岳, 14, vii. 1989, 藤田宏採集。

甫与志岳山麓の原生林中で採集した。

本種は国外では台湾、中国や東南アジアの島嶼に広く分布している種のようなので、九州における発見例は特に興味深いとは言えないが、記録の空白地域なので報告しておく次第である。



(東京都台東区, 藤田 宏)

○渋谷より 30 分、駅前土場にキマダラカミキリ多産す

〈田園都市線甲虫シリーズ その 1〉

渋谷駅より、急行乗り継ぎ 30 分余の所にある田園都市線江田駅のごく近くに、なぜか土場がある。年々材の量は減り、今年は材が移動され、広葉樹と針葉樹の 2 つに分割され、後者は 9 月末をもって消滅した。

広葉樹の土場は百坪たらずで、昨年までの面影もないが、ケヤキ、クヌギ、コナラ、カシ類が主であり、駅前一等地であることから、来年も存在するかどうかは疑わしい。

今年、この土場においてキマダラカミキリが豊産したので、ここに報告する。大半は夜間の見まわりであるが、昼間、クヌギの幹の凹みに隠れて、アンテナだけが見えているものも採集している。ピークは短いようで、6 月 20 日過ぎに 2 度訪れた時には全く姿を見なかった。

5♂♂ 1♀, 横浜市緑区荏田北一丁目, 3. vi. 1989,

大木採集

3♂♂ 2♀♀, 同地, 6. vi. 1989, 大木採集

6♂♂ 4♀♀, 同地, 6. vi. 1989, 日下部良康採集

1♂, 同地, 10. vi. 1989, 大木採集

(横浜市緑区, 大木 裕)

◇ 第 13 回名古屋支部会の記 ◇

日本鞘翅学会が設立されて初めての支部会が 1989 年 4 月 9 日 (日)、愛知県産業貿易館で行なわれた。開催日が例年よりも一ヶ月遅れたためか、出席者は 13 名と、いつもより少なかった。講演はつぎの 3 題であった。

愛知県のオサムシ上科 岩崎 博

愛知県のカミキリムシ科 蟹江 昇

愛知県の甲虫目総論 穂積俊文

名古屋支部は愛知県から県の昆虫分布調査を依頼されており、1986 年以来調査を続けている。現在はまとめの段階に入っており、各講演者はその成果の概略を報告した。

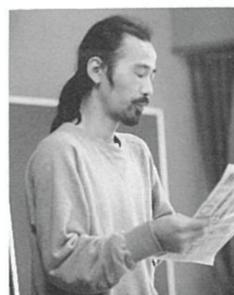
出席者: 岩崎 博, 蟹江 昇, 穂積俊文, 竹内克豊, 長谷川道明, 生川展行, 河路掛吾, 今村隆一, 太田克人, 井野川重則, 清水清市, 水谷高弘, 大塚篤 (順不同)

会終了後、例年のように、初寿司で懇親会が行なわれた。

(穂積記)



穂積氏



蟹江氏



岩崎氏



◇ 日本鞘翅学会第2回大会報告 ◇

1989年11月19日、東京都港区にある機械振興会館において第2回大会が開かれた。

13:00開会。上野俊一会長の挨拶のあと総会に移り諸会務報告が行なわれた。最後に名誉会員の推挙があり、馬場金太郎氏が満場一致で選ばれた。

しばし休憩のあと大会講演へと移行。招待講演では「台湾採集紀行」と題して上野俊一、佐藤正孝、大和田守の3氏が順に演壇に立ち、興味深い話を披露した。特に「台湾における昆虫採集の全面的禁止」に関する話には出席者全員がショックを受けた。一般講演では5題の講演があった。

最後に同定会が行なわれ、17:00閉会した。

一般講演要旨

○日本のゲンゴロウモドキ属 (*Dytiscus*)

—その分布と問題点—

阿部光典 (東京都)

1. シャープゲンゴロウモドキ *Dytiscus sharpi* WEHNCKE
戦前の記録と戦後の再発見、佐渡産と千葉県産、関西亜種 (*D. s. validus* RÉGIMBART) の記録。
2. ゲンゴロウモドキ *Dytiscus dauricus* GEBLER
本州にいるか?
3. エゾゲンゴロウモドキ *Dytiscus czerskii* ZAITZEV
ゲンゴロウモドキとの分布上の関係。
4. キタゲンゴロウモドキ *Dytiscus delictus* ZAITZEV
佐藤 (1984) の日本新記録報告、分布 (とくに日光中禅寺湖での再発見)、中根 (1986) の見解。
5. エゾゲンゴロウモドキとキタゲンゴロウモドキの形態比較
後基節突起とゲニタリア、腹節の暗色部。

○最近正体の判明した日本産ハネカクシ数種について

柴田泰利 (日大三高)

今夏ロンドンの大英自然史博物館で、SHARP や CAMERON のタイプ標本を調べる機会が得られ、原記載以後、正体が不明のまま現在にいたっていた不明種の一部で実体の判明したものがある。

今回はそれらのうち、下記の5種について紹介する。

Astenus setifer CAMERON, *Lathrobium stilicoides* SHARP, *Philonthus bicaudus* SHARP, *Philonthus quediodes* SHARP, *Gabrius minimus* CAMERON

○隠岐島から採集されたチビハネカクシ属の1種

渡辺泰明 (東京農大)

チビハネカクシ属 (*Micropeplus*) に含まれる種は

触角が9節で、前胸背板の腹面各側部には触角を収納する触角窩を有し、前胸背板背面、上翅および腹部背板には顕著な縦隆条を有するきわめて特異な形態を呈している。現在まで、オーストラリアを除いた全世界から約40種が報告されているに過ぎないが、日本からは6種が知られていた。私は最近、本学会会員の平野幸彦氏より、島根県隠岐島で採集された本属に含まれる1種を恵与されたが、その種を検討した結果、頭部の構造および上翅の点刻がきわめて特徴的で、容易に他種から区別することができ、新種と判明したので報告する。

○日本産ヒラタキクイムシ科の分類および各種の分布と生態特性について

岩田隆太郎 (日大、農獣医科学)

ヒラタキクイムシ科 *Lyctidae* は、ゾウムシ上科のクイムシ科とは和名の類似にもかかわらず全く系統が異なり、ナガシクイムシ上科の1科 (またはナガシクイムシ科の1亜科) である。世界で2族12属約70種の小さな科であり、我が国ではほとんどの種がラワン材・竹材の害虫として知られる。その生理・生態は、①近縁のシバムシ科やナガシクイムシ科と同様、すべての種が植物食性であり、②ほとんどの種が強く乾燥に適応し、むしろ湿潤状態には弱く、③栄養生理面では消化管内共生生物も含めて、セルラーゼや窒素固定能力を全く欠き、デンプンや単糖類および植物性蛋白質を要求し、④幼虫は穿孔性が極めて強く、逆に非穿孔状態では生存できない、の4点に要約され、食材性甲虫の中では特異な存在といえる。

日本産の3属6種 (その多くは人為導入種で野外発生が認められない) の分類、および各種の分布・原産地・生態特性にも論及した。

○奥尻島のカミキリ相

植原 寛 (森林総研東北)

楠井善久 (大阪空港検疫所)

伊達 功 (環境アセスネクサス)

鈴木祥悟 (森林総研東北)

奥尻島は北海道松山支庁江差町より61 km 沖の日本海上に位置し、周囲84 km、面積143.27 km² で南北に長い島である。島の面積にくらべて、カミキリムシの種数は少なく、これまで39種が知られているにすぎなかった。しかし、演者らの一人、楠井は、1985、1986年5~10月に50種のカミキリムシを採集した。このなかにはフタコブリリハナ、ヤツボシハナ、トラフホソバネ、トラフ、トウホクトラ、アカガネ、ムナグロリンゴなどのカミキリムシが含まれている。

◇ 1988 年度会計報告 ◇

甲虫談話会決算

収 入				支 出	
前 期 繰 越	762,480	甲 虫 ニ ュ ー ス 印 刷 代	873,000		
会 費 収 入	1,609,500	甲 虫 ニ ュ ー ス 郵 送 費	190,680		
預 金 利 息	1,358	別 刷 郵 送 費	12,880		
甲虫ニュースバックナンバー売上	9,600	通 信 費	60,800		
黒 沢 記 念 号 売 上	18,000	送 金 手 数 料	2,200		
広 告 料	60,000	宛 名 代	11,310		
前 受 広 告 料	60,000	沢 田 先 生 弔 花 代	15,000		
寄 付 金	1,000	宅 急 便 料	930		
忘 年 会 オ ー ク シ ョ ン 売 上	45,450	特 別 会 計 振 替	300,000		
		次 期 繰 越	1,100,588		
合 計	2,567,388	合 計	2,567,388		

日本鞘翅目学会決算

収 入				支 出	
前 期 繰 越	-122,643	ELYTRA 印 刷 代	1,008,280		
会 費 収 入	1,311,000	さ や ば ね 印 刷 代	80,000		
バ ッ ク ナ ン バ ー 売 上	207,200	会 誌 送 料	113,000		
広 告 料	130,000	事 務 費	82,948		
預 金 利 息	117	大 会 会 場 費	47,300		
大 会 会 場 費	41,000	次 期 繰 越	414,272		
草 間 記 念 号 残 金	104,126				
中 根 記 念 号 売 上	75,000				
合 計	1,745,800	合 計	1,745,800		

さらに 1989 年 7, 8 月に、演者らのうち、伊達、鈴木が一般採集および昆虫誘引器を用いた調査を行い、38 種のカミキリムシを得ている。これらの種には、カエデノヘリグロハナ、*Obrium* sp. (ナカネアメイロより色が薄く、やや小型)、*Xylotrechus* sp. (ウスイロトラの小型個体くらいの大きさ)、マツシタトラ、クモノスモンサビなどのカミキリムシも入っている。

このようにして得られたカミキリムシをあわせると 70 種になり、将来的にはもっと数多くのカミキリムシの種の分布が確認されるだろうと思われる。

今回、演者らは、奥尻島の特徴的なカミキリムシを紹介するとともに、近隣他地域のカミキリムシと比較し、特異的な分布をする種についてはその侵入経路などについて考察を行う。

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6 号、有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷 1 丁目 7-6
振替 東京 (3) 21129
電話 (03) 409-6401 (ムシは一番)
FAX (03) 409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社

◇ 会費納入のお願い ◇

会の円滑な運営のために会費はお早めに、振替でお送りください。(会計)

日本鞘翅学会

会費 (一ケ年) 5000 円、次号は 1990 年 3 月下旬

発行予定

発行人 上野俊一

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町 3-23-1

国立科学博物館昆虫第 1 研究室

電話 (364) 2311, 振替 東京 8-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥6,200, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,870, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3 個以下 ¥1,300, 4 個以上 ¥850 (以下同様)、第 2 地帯 ¥1,500, ¥950, 第 3 地帯 ¥1,700, ¥1,050, 其他、各種器具、針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25
電話 (03) 811-4547, 振替 6-113479